【用語】たき村―高崎市上滝町　きゆう所―幕府から給与された知行地　実正―真実で間違いないこと　いらん―道理を乱す、不服を言う都合―工面または算段すること、やりくり　備前様―代官頭の伊奈忠次

【解説】慶長十年（一六〇五）代官頭の伊奈備前守忠次は、武田家の旧臣で群馬郡滝村に土着していた江原源左衛門らの協力を得て、秋元長朝・泰朝父子が開削した越中堀をさらに那波郡沼之上村（玉村町）まで延長する工事に着手し、同十五年に完成させた。この用水は伊奈氏にちなんで代官堀または備前堀と呼ばれるが、越中堀から備前堀までの用水路全体は一般に植野天狗岩用水として知られている。

この文書は、慶長十五年二月、代官堀の開削に活躍した江原源左衛門に対する給所の宛行状（あてがいじょう）である。差出人の和田与六郎は伊奈忠次の下代（げだい）といわれ、源左衛門に滝村の給所と合わせて三町三反歩を与えたことがわかる。この灌漑用水路の完成で群馬・那波両郡合わせて七二カ村一八三六町三反余の耕地が開発され、総石高はその後の開発分を含め二万六八六八石余といわれている。なお、江原氏は江戸時代を通じて上滝村の名主役を務めた。高崎市下滝町の慈眼寺には江原源左衛門重久（寛永十四年銘）の墓があり、江原家文書とともに県指定史跡となっている。